

OSAKI エコリンコ3施工ガイド

～ OSAKI エコリンコ3施工説明書の補足 ～

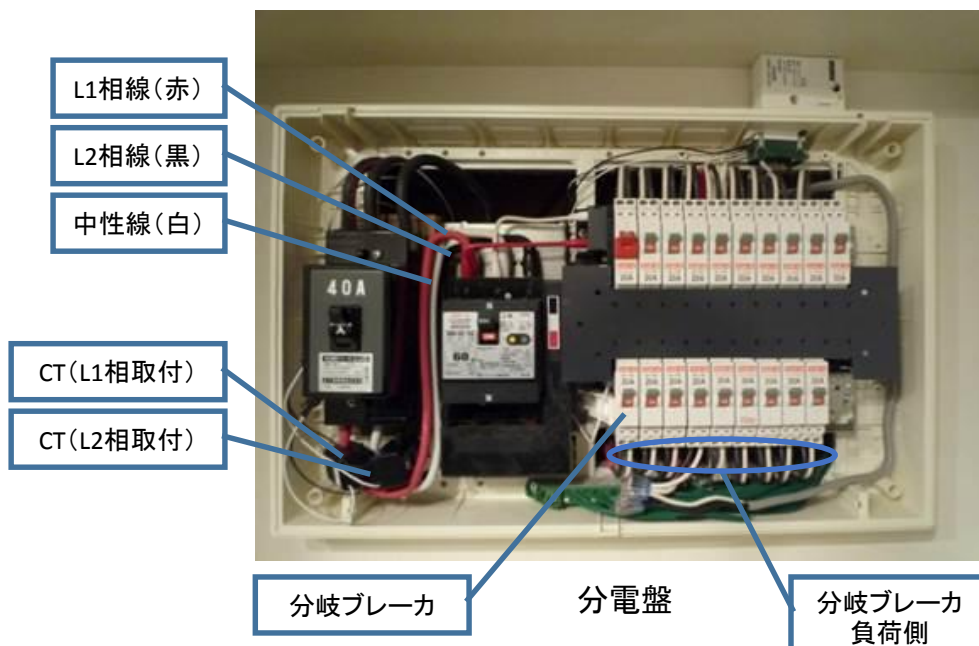
1.無線ルーターからの電波強度確認

エコリンコ3は、無線LAN環境で使用します。分電盤の近くで、お使いの無線LANルーターの電波強度が十分あることが必要です。例えば、分電盤の近くでも、Wifi接続のPC、スマホなどが、問題なくネットに接続できる状態であることなどが参考になります。

2.エコリンコ3用のコンセントの準備 【施工説明書P4/コンセントの設置】

分電盤の近く(約1mの範囲内)に、AC100Vのコンセントがありますか？
ない場合、以下を参照ください。

- ・可能であれば、付近の壁にあるコンセントから延長電源コードを使用し、分電盤の近くにコンセント差し込み口を用意します。
- ・延長電源コードを使用することが無理で、コンセント設置作業がご自分で可能な方は、以下を参照ください。(自己責任の範囲での作業であることは、ご承知おきください。)
また、施工説明書をよく読んでから作業いただくようお願いします。
ご自分での作業が不可能な方は、別途、専門業者による設置工事が必要になります。
作業の際には、安全のためブレーカを下げてください。
電線のL1相側/L2相側が区別できれば、L1相側を利用します。
【施工説明書P5/CTの取付け】区別できなければどちらでも構いません。



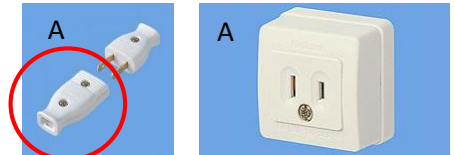
OSAKI エコリンコ3施工ガイド

～ OSAKI エコリンコ3施工説明書の補足 ～

○分電盤内のAC100V用空き分岐ブレーカから、エコリンコ3用のコンセントを用意します。

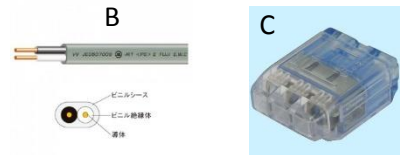
必要部材

- A: コンセントプラグ
- B: 電線 VVFケーブル 2芯 φ1.6mm、φ2.0mm
- C: 差込型電線コネクタ(例: ニチフQXL3)



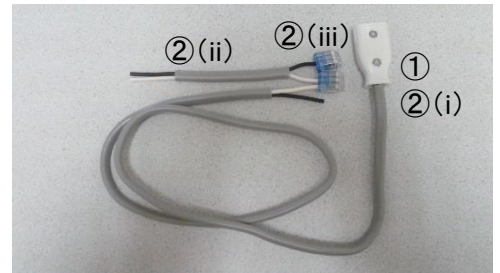
ケーブル加工(準備)

- ①分電盤の分岐ブレーカの負荷側への結線で、既存の電線と追加の電線を共締め可能な場合
- ・電線(分電盤の上部にコンセントを配置する程度の引き回し分の長さ)の片側にコンセントプラグをとりつけ、もう片側は、被膜をむく。(既存の分岐ブレーカの負荷側に接続されている電線のむき出し部分の長さを参照)



- ②分電盤の分岐ブレーカの負荷側への結線で、既存の電線と追加の電線を共締め不可な場合

- (i) 電線(分電盤の上部にコンセントを配置する程度の引き回し分の長さ)の片側にコンセントプラグをとりつけ、もう片側は、差込型電線コネクタに接続するため被膜をむく(12mm±1mm)
- (ii) 分電盤の分岐ブレーカの負荷側の結線用に15～20cmの電線を用意し、片側は、差込型電線コネクタに接続するため被膜をむく(12mm±1mm)。もう一方は、既存の分岐ブレーカの負荷側に接続されている電線のむき出し部分の長さを参照し、被膜をむく。
- (iii) 差込型電線コネクタに、上記2種類の電線のそれぞれL側(黒色)を結線、N側(白色)を結線。



分電盤の分岐ブレーカの負荷側への結線

(注意) 分岐ブレーカを下げてから実施のこと

- ①分電盤の分岐ブレーカの負荷側への結線で、既存の電線と追加の電線を共締め可能な場合

- (i) 分岐ブレーカの負荷側の結線部のねじを緩め
上記①作製の電線を既存の電線と共締めする。



- (ii) 分電盤のケース上部の切込み部分を開け、コンセントプラグをケース上部に配置する。

OSAKI エコリンコ3施工ガイド

～ OSAKI エコリンコ3施工説明書の補足 ～

- ②分電盤の分岐ブレーカの負荷側への結線で、既存の電線と追加の電線を共締め不可な場合
- (i) 分岐ブレーカの負荷側の既存の電線を抜く。
 - (ii) 加工した電線の中継線(ケーブル加工②(ii))を分岐ブレーカの負荷側へ差し込む。
 - (iii) 抜いた電線を差込型電線コネクタに、白色、黒色を合わせて差し込む。
 - (iv) 分電盤のケース上部の切込み部分を開け、加工した電線を引き回し、コンセントプラグをケース上部に配置する。



サービスブレーカ2次側

3.エコリンコ3用のCTを分電盤サービスブレーカの2次側の電線に取り付ける

【施工説明書P5/CTの取付け】

CT(L1相(赤)取付)

CT(L2相(黒)取付)

CT本体に記載されている矢印の向きとサービスブレーカ2次側から先へ流れる電流の向きを合わせL1相(赤)の電線、L2相(黒)の電線にCTをそれぞれ取付ける。

4.エコリンコ3本体に、CTのケーブルを接続する

【施工説明書P5/端子台への配線】

・コンセントのL側が、L1相かL2相か区別できる場合、エコリンコ3本体のコンセントを挿した相に応じ、CTの相を合わせる。

例えば、

コンセントのL側がL1相なら、L1相側の電線に取り付けたCTのケーブルを、エコリンコ3本体のL1相の端子に接続、L2相側の電線に取り付けたCTのケーブルをL2相の端子に接続する。

コンセントのL側がL2相なら、L1相側の電線に取り付けたCTのケーブルを、エコリンコ3本体のL2相の端子に接続、L2相側の電線に取り付けたCTのケーブルをL1相の端子に接続する。

・コンセントのL側が、L1相かL2相か分からない場合、

暫定で、L1相側の電線に取り付けたCTのケーブルを、エコリンコ3本体のL1相の端子に接続、L2相側に取り付けたCTのケーブルをL2相の端子に接続する。



OSAKI エコリンコ3施工ガイド

～ OSAKI エコリンコ3施工説明書の補足 ～

5.エコリンコ3をコンセントに挿す【施工説明書P6/電源の投入】

既存、あるいは、設置したコンセントのL側/N側を確認します。

⇒ 市販の検電テスターや検電ドライバー(数百円からあり)を使用して、L側を確認。

本体に記載されているL側/N側を、コンセントのL側/N側に合わせ挿します。

6.無線LANルーターとの通信(WPS)接続【施工説明書P6/無線LANルーターとの無線LAN接続】

エコリンコ3本体をコンセントに挿すと、LEDの点滅が始まります。

すぐに無線LANルーターのWPSボタンを長押し(5秒から10秒程度、ルーターのLED点灯状況が変わる)、エコリンコ3本体をコンセントに挿し2分以内にLED点滅が点灯に変われば、通信が確立できています。

2分経過後、「LED点灯になり、その1分後、10秒程度のLED点滅、さらに1分間のLED点灯、10秒程度のLED点滅」以下繰り返しの状態の場合は、通信が確立できていません。

エコリンコ3本体をコンセントから抜き、しばらく置いてから、再度、コンセントに挿し、無線LANルーターのWPS接続を再度試してください。

WPS接続ができない場合は、【施工説明書P9/付録】を参照。

7.無線LANルーターとの通信接続状況確認

無線LANルーターに接続されているパソコンで、専用ソフト(AEMCジャパンホームページからダウンロード可能のエコリンコ3用瞬間値測定ツール『Async UDP Queue(β版)』(PC))を動作させ、電力量が計測できれば、完了です。

もし、電力量が0である場合、CTケーブルの途中のコネクタで、L1相側/L2相側の接続をつなぎ替えます。専用ソフトで電力量が計測できれば完了です。